

臨床試験施設	概要
	<p><b>E(exposure, 曝露)</b> 試験薬剤 3g を 45 分間で静脈内に投与</p> <p><b>C(comparison, 比較)</b> なし</p> <p><b>O(outcome, アウトカム)</b> 出血減少 (血漿フィブリノゲン量 : 250mg/dl)</p> <p>副作用の記述 試験薬剤に起因すると思われる副作用認められず</p> <hr/> <p><b>P(patient, 患者)</b> 胎児娩出後、子宮腔内からの弛緩出血患者 1 例 (血漿フィブリノゲン量 : 160mg/dl)</p> <p><b>E(exposure, 曝露)</b> 試験薬剤 2g を 25 分間で静脈内に投与</p> <p><b>C(comparison, 比較)</b> なし</p> <p><b>O(outcome, アウトカム)</b> 出血減少 (血漿フィブリノゲン量 : 280mg/dl)</p> <p>副作用の記述 試験薬剤に起因すると思われる副作用認められず</p>
<p>② 大阪府立千里救命救急センター  近畿大学救命救急センター</p>	<p><b>P(patient, 患者)</b> 全身熱傷 (Ⅲ度 76%)、気道熱傷および DIC による減張切開創部からの出血患者 1 例 (血漿フィブリノゲン量 : 100mg/dl)</p> <p><b>E(exposure, 曝露)</b> 試験薬剤 3g を 180 分間で静脈内に投与</p> <p><b>C(comparison, 比較)</b> なし</p> <p><b>O(outcome, アウトカム)</b> 出血やや改善 (血漿フィブリノゲン量 : 160mg/dl)</p> <p>副作用の記述 投与 1 週間では認められず</p> <hr/> <p><b>P(patient, 患者)</b> 劇症肝炎および DIC による鼻出血患者 1 例 (血漿フィブリノゲン量 : 96mg/dl)</p> <p><b>E(exposure, 曝露)</b></p>

臨床試験施設	概要
	<p>試験薬剤 5g を 300 分間で静脈内に投与</p> <p><b>C(comparison, 比較)</b> なし</p> <p><b>O(outcome, アウトカム)</b> 2 時間後に止血 (血漿フィブリノゲン量 : 176mg/dl)</p> <p>副作用の記述 投与 1 週間では認められず</p>
	<p><b>P(patient, 患者)</b> アセトアミノフェンの中毒によるショック患者 1 例 (血漿フィブリノゲン量 : 正常域)</p> <p><b>E(exposure, 曝露)</b> 試験薬剤 1g の投与、血漿交換</p> <p><b>C(comparison, 比較)</b> なし</p> <p><b>O(outcome, アウトカム)</b> (血漿フィブリノゲン量 : 510mg/dl) ※この間 670ml の FFP (採血後 4 時間以内の全血から遠心分離によって得た血漿を凍結したもの) を投与</p> <p>副作用の記述 投与 1 週間では認められず</p>
	<p><b>P(patient, 患者)</b> 交通外傷による脳挫傷に伴う脳室内出血並びに左大腿骨骨折で、脳挫傷内血腫ドレナージ術 (投与 7 日前) 並びに左大腿骨骨折観血的整復術 (投与 1 日後) の施行患者 1 例 (血漿フィブリノゲン量 : 590mg/dl)</p> <p><b>E(exposure, 曝露)</b> 試験薬剤 1g の投与</p> <p><b>C(comparison, 比較)</b> なし</p> <p><b>O(outcome, アウトカム)</b> (血漿フィブリノゲン量 : 500mg/dl) ※低下は、手術に由来するものと考えられた</p> <p>副作用の記述 投与 1 週間では認められず</p>
	<p><b>P(patient, 患者)</b> 肝硬変症に伴う高ビリルビン血症と意識障害にて来院し、血液灌流 (DHP) の施行患者 1 例 (血漿フィブリノゲン量 : 200mg/dl)</p>